

親鴨会 2020年7月メッセージ

豪雨による被害が毎日報じられています。被害に会われた皆様にお見舞い申し上げます。

今年も、「親鴨だより」2020年6月号を発行しました。親鴨会ホームページに掲載するとともに、アクセスできない会員に限っては郵送しています。コロナ禍で、各支部も今年の総会を中止せざるを得ず、会員同士の交流の場として重要な総会開催を実現出来なかったことは残念ではありましたが、健康・安全を最優先で考える限りはやむを得ないことと思っています。そうした状況であるからこそ、「親鴨だより」で会員の近況をお読みいただき、会員相互のコミュニケーションの契機にしていいただければ幸いです。

「ニュー・ノーマル」という新しい生活習慣が声高に言われています。ソーシャルディスタンスを保つ、会食中は大声で会話をしない、部屋/電車での換気など。しかし、その基準の曖昧さもあり、自分の基準に合わない行動を見ると違和感を覚えるなどのストレスになりかねません。共通理解のための時間も必要だと感じます。また、大学の新生が「オンライン授業が続いているので学習は出来るが、級友は出来ない」と嘆いているのを聞くと心が痛みます。当たり前のことが、当たり前でなくなっていくという非連続が判断を迷わせます。

また、今年の台風19号の風水害に続き、今年も各地で大雨の被害が報じられていますが、「50年に一度の降水量」といった言葉が虚しく聞こえてしかたがありません。明らかに近年の気候変動がもたらす大雨の被害は過去の経験値を覆し、統計から確率を語ることの難しさが増しています。これも「ニュー・ノーマル」の事象と言えるのでしょうか。

とは言え、変化は「前向きな挑戦」を生むチャンスでもあります。そして、その挑戦には経験則から一歩離れて、幅広い世代の知恵の集結が必要だと思います。「俺の経験では」という高齢者(私)が得意な前振りが出来ない時代かも知れません。

親鴨会会長
内池 正名